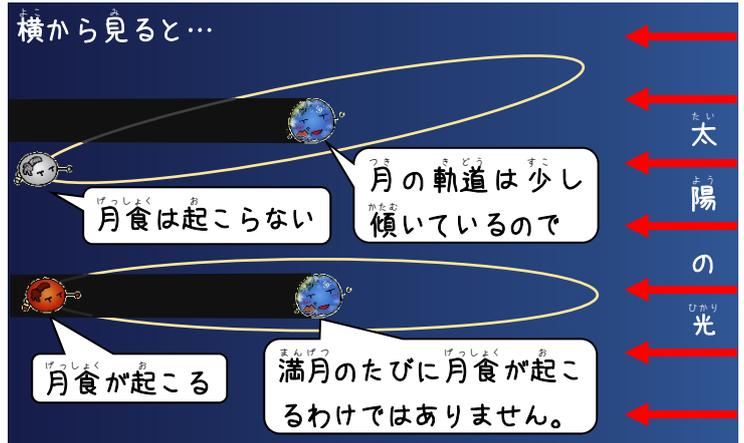
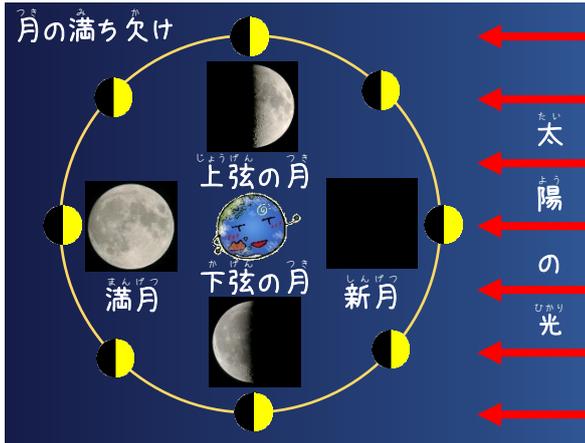


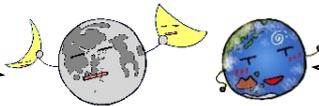
星空の交差点

皆既月食を見よう！

5月26日(水)、西脇では3年ぶりの皆既月食が起こります。月食は満月の日、地球の影に月が入るときに起こります。太陽と地球、月が一直線に並び奇跡を楽しみましょう。



月は、太陽の光を受けながら地球を回っています。新月から次の新月までは約29.5日です。



地球をはさんで太陽の反対側に来た時が満月です。



月は、右から左へ地球の丸い影を横切っていきます。

地球の影に入っているのに月が赤く光っているね！

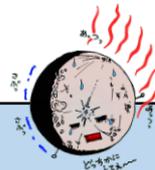
地球の大気を通った赤い光が月を照らしているからデス

20時ごろ、皆既月食の状態です。昇ってきて、だんだん地球の影から出て、21時53分には満月に戻ります。

月食の色は地球の大気の透明度で変わります。



星空のみどころ 5月～7月



●5月14日 水星を見つけよう

太陽系のいちばん内側を回る水星は、地球から見ると太陽の近くにあるためなかなか見ることができません。5月14日の夕方に、水星を見つけるチャンスがやってきます。19時40分ごろ、まだ明るい西の空に三日月が見えます。三日月の右下、にぎりこぶしひとつ分ほど離れたところに水星が光っているのが見つかるはず。双眼鏡があれば見つけやすいでしょう。西の方角に山や建物が無いところで探してみてください。

2020年5月24日の月と水星



©にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

●6月10日 北極で金環日食



太陽の手前を月が横切り、太陽を隠してしまうのが日食です。月と地球の距離により、月の見かけの大きさが変わり、月が大きく、太陽を全部隠してしまうのが皆既日食で、月が小さく、太陽がリング状にはみ出て見えるのが金環日食です。6月10日にグリーンランドなど北極地方で金環日食が起こります。残念ながら日本からは見ることができませんがニュースや新聞で画像が見られるでしょう。2030年には北海道で金環日食が見られます。

2012年5月21日の金環日食



©M. Hirai (日本のへそ☆西脇天文同好会)

●星出宇宙飛行士の乗っている宇宙ステーションを見よう

星出彰彦宇宙飛行士を乗せたクルードラゴン宇宙船が、4月22日に国際宇宙ステーションに向けて打ち上げられます。国際宇宙ステーションには4月29日まで野口聡一宇宙飛行士が搭乗中で、2人の日本人宇宙飛行士が活動することになります。

国際宇宙ステーションは、サッカー場と同じくらいの大さで、約90分で地球を1周しています。日没後や夜明け前など、地上が夜で上空の宇宙ステーションに太陽の光があたっているときに、金星くらいの明るさで空を横切っていくのが目でも見えます。飛行機と違い点滅しないのでわかりやすいでしょう。

5月12日の19時4分から19時7分ごろにかけて、西脇上空を南西から北東に向かって通るのが見えます。国際宇宙ステーションが見える日は、下記のサイトで調べることができます。みんなで星出さんに手を振って声援を送りましょう！



©NASA

国際宇宙ステーションの光跡



©にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」



#きぼうを見よう

<https://lookup.kibo.space/>



星空の宝石箱③ おおぐま座のふくろう星雲

春の夜空の目印、北斗七星はおおぐま座のお尻と尻の部分にあたります。ひしゃくの水をすくう部分の先から2番目の星の近くに、惑星状星雲M97があります。丸い星雲の中にふたつの穴があいたような形がフクロウの顔に似ているため、ふくろう星雲と呼ばれています。太陽くらいの星が燃料を使い果たし、宇宙に広がっていく姿で、実際には丸ではなく砂時計のような形を斜めから見ているものだと考えられています。すぐ近くには渦巻銀河M108があり、大型の双眼鏡では同時に見ることができます。

ふくろう星雲



©にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」



テラ・ドームみどころ紹介



地球の中身

テラ・ドーム展示室のいちばん奥に、直径3メートルの地球儀があります。陸地だけではなく、海溝や海嶺など、海底の地形を見ることができます。裏側に回ると、地球の断面を見ることができます。私たちの立っている地球の表面は、地殻といて、厚さは30kmくらいです。地殻の下にはマントルがあり、マントルの対流によりプレートが移動しています。中心にはおもに鉄やニッケルでできた核があり、液状の外殻と固体の内殻があると考えられています。地球の内部は地震の波の伝わり方で間接的に調べることができます。しかし、まだ誰もマントルを手にとって見たことはありません。海洋研究開発機構(JAMSTEC)の地球深部探査船「ちきゅう」は、マントルまで穴を掘ることを目標のひとつに研究活動を行っています。地球の中身を直接見られる日が楽しみです！



地球深部探査船 ちきゅう

JAMSTEC



ちきゅう船内の研究施設

JAMSTEC



へそ公園周辺の植物

キランソウ(シソ科)

道ばたなど日あたりの良いところでよく見られます。放射状に広がった葉の間から紫色の花を咲かせます。シゴクノカマノフタという少し怖い別名があります。キランソウは昔から下痢止めや解熱、咳止めなどの民間薬として使われていて、病気を治して地獄の釜にふたをするという意味だそうです。



上ノ志保経緯緯地球科学館「テラ・ドーム」

☆月食クイズ☆

第1問

月食はどうして起こるでしょう？

- ①太陽が月をかくす
- ②月が太陽をかくす
- ③地球の影が月にうつる



©TERRA-DOME

第2問

月食が起こる日の月の形は？

- ①三日月 ②半月 ③満月

第3問

皆既月食の間、月の色はどうなる？

- ①赤くなる ②青くなる ③黒くて見えない

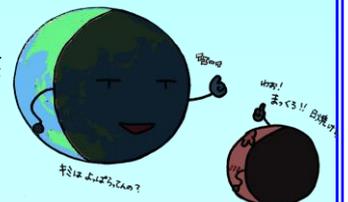
第4問

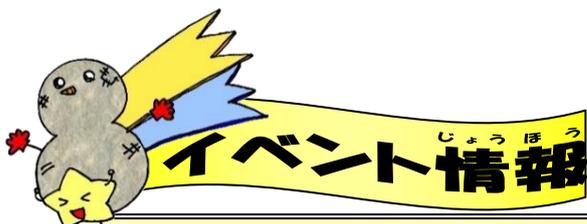
皆既月食の色は



何で決まる？

- ①地球の空気のきれいさ
- ②月の温度
- ③太陽の温度





- 開館時間 10:00～18:00
- 休館日：月曜日・祝日の翌日(土日祝は開館)
- 入館料：大人400円・シルバー300円・学生200円・小中100円

「星をみる、とる道具」展



双眼鏡や望遠鏡など、星をみたり、とったりする道具を展示します。簡単な撮影方法などもご紹介します。



- ★ 期間：3月20日(土)～6月20日(日)
- ★ 場所：テラ・ドーム企画展示室
- ★ 入館料だけで見られます。

テラ・ドームギャラリー



- 5月 気ままな仲間たちの自然写真展
- 6月 西脇高齢者大学写真講座受講生作品展
- 7月 西脇高校地学部・写真部作品展

★ ギャラリーのみの見学は無料ですが、展示室の見学には入館料が必要です。

土曜ちよこっとサイエンス

テーマは「体感」。簡単な工作をしながら科学の不思議を体感しよう！内容は週によって変わりますのでお問い合わせください。

- ★毎週土曜日13:30～・15:30～
- ★定員は各回20名程度です。



新型コロナウイルス対策について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため下記の取り組みを行っています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- ★ 館内でのマスク着用
- ★ 消毒液の設置
- ★ 入館時の検温
- ★ 入館者台帳への連絡先記入
- ★ 館内消毒のための一時閉館
- ★ イベント定員の制限
- ★ 館内滞在時間の制限(2時間)
- ★ 館内混雑時の入館制限
- ★ 団体利用時の入館制限(貸切対応)

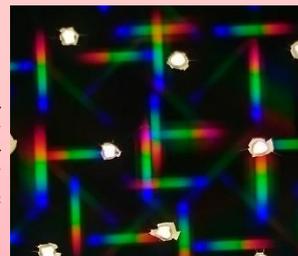
ご協力をお願いします。



最新情報はホームページでご確認ください。

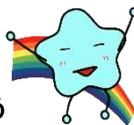
子ども科学教室

身近な材料を使った実験や工作で科学のふしぎを体験しよう！入館料だけでご参加いただけます。(先着8組)



日曜・祝日 13:30～・15:30～

- 5/2・3 折り紙で地球をつくろう
- 5/4・5 ゴム鉄砲をつくろう
- 5/9・16 偏光まんげきょうをつくろう
- 5/23・30 ふわふわボールをつくろう
- 6/6・13 ミズスマシポートをつくろう
- 6/20・27 虹スコープをつくろう
- 7/4・11 ぴよんぴよんがえるをつくろう
- 7/18・22 段ボールつりであそぼう
- 7/23・25 アメンボすいすい
- 8/1・8 ふしぎ!? ういたりしずんだり



夜のスターウォッチング

81cm大型反射望遠鏡でいろいろな星を見てみよう！

- ★土曜日・祝前日 19:30～21:00
- ★参加費：1人200円(幼児は無料)
- ★定員：5組または20名(先着順)
- ★要電話予約(当日でも可)



※ 悪天候の場合はプラネタリウムと星のお話です



みどころ：アークトゥルス、おとめ座の銀河M87、木星状星雲、球状星団M3など

テラ・ドーム通信「星空の交差点」

2021年5月号

にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」

TEL 0795-23-2772

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/terra/>